

## 行政視察報告

### 議会運営委員会

四月十八日から二十日の三日間、福島県三春町、いわき市を視察研修した。

調査内容は、三春町では①議会運営について、②自治基本条例について、いわき市では、①一問一答制について、②休日・夜間議会の開催及びその議会運営についての四項目である。

三春町の議会運営については、対面方式で一問一答方式を採用し、一人三十分以内で一問につき三回まで発言できる。また、イントラネット整備事業により役場内議会中継ができ、他の地区へも中継可能である。一般質問と答弁を一日一人、夜七時三十分以降に防災行政無線で放送している。自治基本条例は制定しているが、その内容については築城五百年の節目を記念して、町民会議、条例検討委員会、庁内検討委員会、町民自治基本条例検討委員会を公募町民六名とアドバイザー一名で、行政主導にならず独自性で決定した。議会の審議について

は、研修会・説明会・勉強会・全員協議会等を開催し、スムーズな審議となるよう努力した。

議決後については、広報・チラシ・説明会・ホームページの掲載で町民に周知した。その後については、町民の参画、町民との協働が進んだが、町民主体のまちづくりを展開しており、特別に変化はないとのことである。

いわき市の一問一答方式は、東日本最初ということで知られているが、年間一人当たり百二十分持ち時間があり、会派プール制としており、大会派が先順位とし、質問のやりとりは議席前の第二演壇で行う。答弁は基本的に各部長が行うが、次長が待機しており、執行部との緊張感が高まり、白熱した議論が展開されている。また、傍聴者が多くなり、わかりやすい議会になったと好評である。

夜間議会の開催は、モニターテレビにより会議放映しており、またインターネットにより会議をライブ中継している。夜間開催には至っていないが、会議を録画放映して議会の活性化を図っているとのことである。

伊予市議会も改革特別委員会を設置し、検討しているところであるが、一つでも参考になればと思いつつ報告したい。



いわき市の議員質問席

### 民生文教委員会

五月十五日から十七日の三日間、山形県東根市・長井市での視察研修を実施した。

東根市においては、「指定ゴミ袋の運用方法及び廃食用油燃料化について」、長井市においては、「レインポープランについて」の研修を実施した。

東根市は、近隣三市一町にて一般ごみからし尿・粗大ごみ・最終処分場まで管理する多機能処理組合を構成し、ほ

とんどの施設を一カ所に集約している。

平成六年四月よりごみの分け方・出し方を変更する際、計一三八回の住民説明会を実施し、その後住民より指定ごみ袋導入の要望が出され、翌年七月より県内で最初に有料化を実施した。周辺自治体の有料化の動向・さらなるごみ減量化推進のため、袋の形状に改良を加え、十六年四月より袋の値段を二倍とし、現在の二十ℓ袋三十円・三十ℓ袋四十円とし現在に至っている。

ごみ有料化の課題を聞いたところ、住民参加の協議会からの有料化の提言であり、スムーズに運営できている。不法投棄に関してもごみ集積場の適正指導により減少しているとのことであった。

廃食用油燃料化に関しては「新エネルギー産業技術開発機構」の助成を受け施設整備し、十七年八月よりBDF(バイオ・ディーゼル・フェューエル)の精製を開始し、組合所有のし尿収集車の燃料に使用していた。

長井市は「まちとむら、台所と農業、現在と未来の間に希望の架け橋を架けよう」との希望を託した「レインポ

プラン」を推進していた。レインポープランのきっかけは、①土が危ない②食への不安③焼却場の老朽化という住民の危機意識から始まり、柱の事業は各家庭から出る生ごみのリサイクル事業である。

これは、各家庭が水切りバケツを購入し、生ごみを徹底分別し、コンポストセンターにて畜糞と粉殻を混ぜてたい肥化し、農家・個人に販売するシステムである。

食の安全・環境の保全・住民自治意識の向上・未来への地域の伝承を念頭に推進しているレインポープランに脱帽するとともに、住民自治意識の高さに感心させられた。



BDFを利用した東根市のし尿収集車